

# ひなたの郷

## 「体験」の大切さ

教育現場も DX 化が進み、タブレットを文房具のように日常的に使うようになりました。デジタルは便利で効率的ですが、小学校時代には学びの土台となる直接体験が重要であると考えます。五感を通して得た体験があってこそ、デジタルの学びの中でも実感が伴う深い学びに繋がります。

最近、子供たちは、実際にお金を使って買い物をしたり、お釣りを受け取ったりという体験をしているのでしょうか？お金を使う体験は、算数科の10のまとり(10進法)やたし算、ひき算を活用できる機会になってきました。キャッシュレス化が進み、こうした日常経験が少なくなっています。また、手軽に動画が見られる現在、読書離れも進んでいます。文字や耳からの情報をもとに、イメージする機会が減っているように感じます。

9月は、学校を離れ各学年で様々な体験的な学習が行われました。学校に限らずご家庭においても、体験的な学びを、意図的にしかけていただければと思います。(10月には2年生、4年生も校外学習予定)



【5年宿泊学習：火の熱さ、煙の臭いを実感】



【6年修学旅行：教科書で学んだ内容を実感】



【3年生市場見学：魚の臭いや市場の広さを実感】



【1年生牧場見学：動物との触れ合い体験】



## 保護者、地域の皆様に【感謝】

子供たちの健やかな成長を願っているのは、「保護者」「教職員」「地域」、そして「子供自身」の四者です。同じ思いをもつ四者が、力を合わせ同じ方向に進んでいければ、子供たちの大きな成長に繋がっていくと考えます。

8月31日(日)には、多くの方にご協力をいただき、校庭の除草作業を行いました。今年の夏は例年以上の酷暑で、これまでにない程校庭の雑草も茂っていました。皆様のご協力のおかげで、体育や陸上大会に向けた練習を行うことができます。

また、1学期に引き続き、読書ボランティアの皆様には、ご自分の時間を割いてご協力をいただいております。子供たちは、お話のイメージを膨らませながら、静かに聞き入ったり、時には大きな声で笑ったりしています。

特設吹奏楽部の活動には、保護者の方に2回ほどご指導をしていただきました。10月1日(水)の合奏祭に向けて、子供たちの力を高めていただきました。

日頃から、子供たちへの声掛けや様々なご対応をいただいている皆様のお力添えにも、心から感謝申し上げます。



## 指導力向上を目指して

子供たちの学びを深めるためには、当然ながら教師個々の指導力向上が欠かせません。また、学校全体で、子供たちの学びの課題を明確にし、その解決に取り組んでいかななくてはなりません。

本校では、今年度「算数科」を研究教科に位置づけ全教員で学び合っています。また、教員個々の経験年数に応じた研修も行っています。経験豊かな教員が指導したり、複数人で意見を出し合ったりして学びを深めています。

9月26日(金)には、今年度2回目となる、市教育委員会の指導主事を招いての研究授業を行いました。これまでの指導力向上の積み上げの成果が、【全国学力・学習状況調査】にも表れていましたが、さらなる成果を求め尽力しています。



【2年生:算数科の事後研究会の様子】



【3年生:学級活動で話し合う活動を学ぶ姿】



【1年生:算数科で図を用いて比べる学習】